

序文

2013年増刊号として、「図で早わかり 実戦！眼科薬理」を刊行した。その目的は、日常眼科診療においてオールラウンドな立場で、ある一定レベルでの診療を行うことができることであり、それを可能とするためにその時点での各領域における標準的な薬物治療をその理論的な根拠とともにわかりやすく網羅した。そして診療のかたわら、それを座右に置きながら折に触れて紐解くことで実戦と自己研鑽の両者を図ることも大きな目的であった。

既刊から6年が経過した時点で眼科診療の全体を俯瞰したとき、領域によっては新しい疾患概念が確立されたり、新規治療法が導入されたりしたこともあり、既刊では必ずしも内容的にカバーされていない部分が散見されるようになった。そこで今回の増刊号では、この6年間の眼科臨床の進歩も取り入れながら、その発展的続編とも言うべき「実戦 メディカル眼科治療アップデート」を刊行することを企画した。

内容は、眼科薬物治療全般で留意しておくべき総論的内容と各種疾患を対象とした各論的内容に加え、眼科医として知って得するちょっとしたトピックスをも取り入れて、全体の内容を彩りあるものとしたつもりである。各章を分担執筆していただいたのは、現在それぞれの分野で活躍されている気鋭の眼科医・眼科研究者の方々であり、ほとんどの項目において今回新たな方に執筆をお願いした。これにより既刊とは異なる視点からの記述を得ることができた。興味のある方はぜひ両者を比較して、その内容を検討していただくことをお勧めする。そうすればこの6年間で眼科学がどのような点で変わったのか、またどのような点で不変であったのかなどが手に取るようにわかるであろう。そのような深みのある理解も可能となることを保証する。また、今回のもう1つの特徴として、各論ではできるだけ実戦的な要素を強くもたせるために実際の症例を重症度別に呈示・解説していただいたのと、「メディカル眼科治療」の範疇に薬物療法だけでなく、レーザー治療などの非観血的治療をも含めたことが挙げられる。

今できあがった内容を見てみると、各分担執筆者による大変熱のこもった内容となっており、当初の編集子の予想をはるかに上回る良書ができあがったと自負している。本書が、日々忙しく診療に従事されている眼科医の方々にとって最新のメディカル眼科治療を実戦することに少しでもお役に立つことができるなら大いなる喜びである。

編集代表 中澤 満